

1973年初冬号

1973年初冬号

[illegible]

医学進歩課程

同窓会の発足に当って

豊 山 柴

成蹊大学における医歯学進歩課程（ブレメ）の制度は政経学部創設と共に併設され、昭和二十四年以降昭和四十年に至る十七年間設置されたわけであるが、この制度は、旧制高校理科の伝統を生かした立派な教授陣と諸設備が成蹊に存在していたために、必然的にブレメ教育として誕生し育成されたわけである。その間、約六三〇名のブレメ修了生が二カ年の課程を終え、夫々医学関係の大学に進学した。成蹊のブレメが廃止にふみきつたのは、各大学の医学部がブレメを新設したからであって、客観的にみて止むを得なかったと思っている。

われわれのブレメ時代を顧みて二カ年の短かい年月とはいえ、松尾登先生（現成蹊大学工学部長）はじめ諸先生方のきびしい御指導と医学部受験をひかえて、不安と希望の錯綜した真剣な学生生活であり、今になって考えると誠に充実した日々を送ったのであり、今日、医師としての基礎を築き上げて頂いたことに改めて感謝の意を表する次第です。

第です。

一方、政経学部も昭和四十四年三月に第十八回の卒業生を世に送り、爾後、経済学部と法学部に引き継がれ終止符をうった。政経学部の卒業生数は約四五〇〇名で、その同窓会の基盤はすでに確立し、順調な発展をとげていると聞いている。

当初、ブレメも学制上は政経学部の一部であるので、政経学部同窓会のなかで運営してはという意向もあったが、社会の活動分野が異なるので、別に同窓会を結成し、他校同窓会と協調していきたいという意見が多数であった。しかし、当時は医学部学生又は医局生活者が大部分を占めていたので、自らのことに多忙で気運が熟さなかったのが実状であった。

昨年来、有志の者が折々集まり、当時のブレメ学生も現在では開業医として、病院勤務医として、医学部教育者として、それぞれ、第一線で活動し、かつ安定してきたので、同窓会を結成しようという話が再び持ちあがり昨年十一月二十五日第一回世話人会、本年一月二十日に第二回世話人会を開き、総会を開く運びとなった。

かくて、ブレメ同窓会総会が六月二日に銀座東急ホテルで開かれ、四十余名が参加し盛会であった。当日は成蹊から松尾登、菅原吉彦の両先生もご参会いただき、成蹊会から、谷岡常務理事がご出席下さった。

今後の方針としては、先づブレメの卒業生名簿を整備し発行すること。住所不詳の方が多いので、現在、各出身医科大学別に調査し、十二月下旬には刊行する予定である。第二に年一回程度懇親会を開くこと、会員相互の親睦を図ることが最も大切なので是非実行

したいと考えている。

次に、これを機会に、現在の医療問題についての私見を述べさせていただきます。高度経済成長時代から福祉社会への転換期にあたり、われわれ医療関係者の果すべき役割は極めて重要であり、この期にあたり、中心となるべき医師の団結はもっとも大切であると信ずる次第である。成蹊のブレメ同窓の士も縦と横の連絡を密にし、自らの利害を離れて、新しい時代に適応した医療を達成すべく努力すべきであると考え。今日の荒廃した医療制度は全く前近代であり、これを抜本的に改革し、真に患者と医療関係者の人間関係を基盤にした医療体制を確立することが急務であると信ずる。ブレメ同窓の士も現在の矛盾した医療をお互に手を取り合って、一つ一つ解決して行くことに努力しようではないか。

ブレメ同窓会総会に出席した大多数の各位の希望は、現在の成蹊大学は当初の政経学部から、次々と発展し、工学部、文学部も創設され、次第に総合大学へと大いなる飛躍を成しつつあることは大変喜ばしいことであるが、この立派な伝統と歴史のある大学に医歯学部がないのは極めて残念なことであるから、ブレメ同窓を中心に、学校当局と諸先輩の御協力を得て、新時代にそくした医歯学部の創設を希望するとの発言が多かったことをこの機会にお伝えしておきたい。

成蹊会の傘下には十一の同窓会があり、会員数としては小型の同窓会であるが、医師ばかりという特殊な団体であり、今後は他の同窓会と協力しつつ、立派なブレメ同窓会を作り、母校成蹊に対しても何等かのかたちで寄与できればと願っている。（開業医・ブレメ2回）

ブレメ第四回終了生

二十周年同窓会を開催して

私共ブレメ、第四回生の大部分のものは、昭和二十九年三月に修了しておりますので、かれこれ二十年の歳月が流れた事になりました。たった二年間という短い期間ではありましたが、私共にとって色々と悩み多き青春の一駒の中にありながら、或る意味で非常に有意義な一時代であった事は否めません。

その思い出を新たにする為に十一月二日原宿、南国酒家にて当時指導教授でありました数学の川上芳郎先生、化学の松尾登先生、物理の菅原吉彦先生と成蹊会常務理事谷岡喜久蔵氏をお招きし二十周年同窓会と名をうって、開催させて頂きました。生物の岩佐正夫先生も御列席の予定でしたが生憎、他の会合と重なり、非常に残念がっておりますが御欠席されました。

全国に散らばっております同窓生の新住所を調べるのに多少の労力を費しましたが、兎に角第四回生の名簿を作成し、当日皆さんにお配り致しました東京及その周辺在住のものは大部分出席し岩手、長野などからも馳参じ、合計二十一名集りました。

各自近況報告の後、松尾、菅原同先生よりほんの数分でしたが、スライドを用いて、御研究の一部分をお話し下さり、時代の先端を歩まれる御研究に私共は暫し、傾聴させて頂きました。記念品贈呈の後、約三時間の楽しい同窓会もお開きとなりましたが、未だ談笑の余韻醒めやらぬ中に、原宿の枯葉散る並木道をほろ酔い気分を下り、二次会はいやがうえに心の昂揚を覚え、互に去り難き余燼を残して又の再会を約し乍ら散っていきました。

（河北病院整形外科医長・ブレメ4回・湯川佳宣記）

成蹊学園近況

昭和四十八年五月の理事会において大学院工学研究科に新たに博士課程を増設する事が承認され、十一月末申請予定で準備を進めている。

施設関係では昨年末より改修工事中であった波在間寮は七月八日竣工し、利用を開始した。同寮は鉄筋コンクリート造で、和室十五畳十二室と大中小の浴室が設けられている。

七月十六日不幸にも現職の学長であった石井昭久先生が急逝され、七月十九日、成蹊大学並びに中央労働委員会による合同葬が青山葬儀所において執り行われた。

学長逝去に伴い七月十七日付で朝倉孝吉教授(経済学部長)が学長事務取扱に就任した。環境面では、通学路の安全及び成蹊のシンボルであり武蔵野市の天然記念物である樺並木を保存する目的のため樺通りと山桜通りの一部が九月二十六日より車両通行禁止となった。

これにより一層静かで文教地区としてふさわしい環境になるものと期待している。

成蹊学園寮御案内

■志賀高原寮(電話〇二六九―三四―二〇一七)

①東京(国鉄)↓長野(長野電鉄)↓湯田中(バス)―(丸池経由)↓平床下車

②東京(国鉄)↓長野原(バス)―(草津経由)↓平床下車(冬期不通)平床バス停より約三〇〇M

■箱根寮(電話〇四六―三三六―五五一)

東京(国鉄)↓小田原(バス)↓元箱根下車・元箱根バス停より声の湖に沿って箱根神社を経て約一、五〇〇M

■波在間寮(電話〇四七―二九―一〇四)

東京(国鉄)↓館山(国鉄バス)↓名郷浦下車・名郷浦バス停より約五〇〇M(バス坂田・洲ノ崎、伊戸・西川名行乗車)

●使用料金

志賀・箱根・波在間寮(共通)一泊二食付 一、二五〇円

●使用資格

成蹊学園教職員・学生・卒業生及びその関係者

●申込先

成蹊学園総務部管理課 電話〇四二―五一―五一八

成蹊クラブ(有楽町ニュートキョー七階)

電話〇三―五七一―七七五二

お問い合わせは申込先へご連絡願います。

自 肅 下 の

就 職 戦 線

平 山 芳 照

青田買いから種籾買いにエスカレートした大卒者の求人戦争は、本年度から文部省要請および大学側の指導ならびに業界の自肅申合わせが奏効し、会社訪問は五月一日以降・採用試験は七月一日以降となり、正常化への第一歩を踏み出した。今年の就職事情は例年どおり売り手市場であり、昨年までとことなるのは入社試験が七月初旬に集中して短期決戦となったため、学生は志望会社を従来以上はつきりと絞らねばならなかったこと、又企業は解禁日まで採用内定ができなくなったので、はたして計画どおり採用できるかどうか苦慮したことである。

本学への求人は六月中頃から七月にかけて一斉に集中し、七月末までに約三二〇〇件の求人があったが、夏休みたけなわの八月は学生の姿もまばらで、又これを見越してか求人も少なく事実上休戦状態となった。夏休みを控えた第一ラウンドは文字どおり短期戦となったが、学生はいずれ就職できるものと比較的のんびりしていたが、一部企業は五・六月の会社説明会や訪問学生の中から、「これはと思われる学生」を足止めして票固めに苦心したようである。来春も例年なみの十数万人の大卒者が社会に巣立ち、更にサミタレ式

長期採用活動から七月解禁に変わったので、時間的にも七月だけで全学生が配分されることは極めて無理なことで、大方は休明け後の「秋の決戦」に満を持しているのである。

七月の第一ラウンドでは主に金融関係と有力商社それに一部大手企業と人気企業が採用終了したにすぎない。最近「二億総銀行商社」という言葉を聞くが、極めて揶揄的であってそこに短期決戦の狼狽ぶりが窺える。

本年の就職希望者は全学で一〇一三名・内女子一六六名、八月末の内定届出数は文系五六五名・内女子七四名、工系二〇一名・内女子二名である。内定率は七六％に達した。首都圏大学の就職内定率は平均約五〇％と推測されるが、本学では既に大勢を決した感があり、就職面でも少数精鋭の強味を遺憾なく発揮したのである。

最近採用企業から、卒業生の評価に関し「非常に優秀なり」と聞かされるが、それは人柄が素直で人間的魅力に富み、成果を挙げた結果のようだ。多少社交辞令はあるにしても、私自身直かに学生に接して充分体験し且つ合点できることである。つまりは我が成蹊大生にはよそにない伝統ある成蹊シブを内に秘めているのであって、この賛辞もむべなるかなと確信するものである。本誌三五号に工学部三橋教授が、いみじくも語られた「就職のための戦略的意図ではない」と、その人物のよさを指摘されたのを思いだすと共に、現実に社会的にも評価されていることを附言して、今後とも先輩諸兄と諸先生の御指導を切に御願ひ申上げる次第である。

(成蹊大学就職事務室前事務長)

成蹊会報告

昭和四十八年四月一日
昭和四十八年十月三十一日

一 会議

○理事会

- (1) 第五回理事会(五月十八日)
- (4) 四十七年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (5) 財産目録(四十八年三月三十一日現在)承認の件
- (6) 四十八年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (7) 特別委員会推薦の件(第一次)
- (2) 第一回理事会(七月二十七日)
- (1) 会長・副会長・常務理事互選の件
- (2) 特別委員会推薦の件(第二次)
- (3) 特別委員会委員(財務・クラブ・育英)選任の件
- 評議員会
- (1) 評議員会(七月九日)
- (4) 理事・監事選任の件
- 会員総会
- (1) 第十八回通常会員総会(六月十八日)
- (4) 四十七年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (5) 財産目録(四十八年三月三十一日現在)承認の件

○特別委員会

- (1) 育英奨学委員会(六月二十五日)
- (4) 四十七年度育英奨学事業報告の件
- (4) 四十八年度育英奨学事業計画の件
- (2) 育英奨学委員会(七月五日)
- (4) 四十八年度育英奨学学生選定の件
- (3) 成蹊クラブ委員会(七月五日)
- (4) 四十七年度成蹊クラブ事業報告の件
- (4) 財務委員会(七月十日)
- (4) 四十七年度財務報告の件
- 支部会
- (1) 九州支部会(四月二十一日・福岡)
- (2) 関西支部会(六月十四日・大阪)
- (3) 九州支部会(七月七日・長崎)
- (4) 千葉支部会(七月二十日・千葉)
- (5) 北海道支部会(七月二十一日・札幌)
- 同窓会
- (1) 工学部委員会(五月七日)
- (2) 経済学部委員会(五月十日)
- (3) 法学部委員会(五月十一日)
- (4) 文学部委員会(五月十二日)
- (5) 小学校委員会(五月十四日)

- (6) 旧制高校委員会(五月十六日)
- (7) 政経学部委員会(五月十七日)
- (8) 高等学校委員会(五月二十一日)
- (1) (8)の議案は各同窓会役員・委員改選の件
- (9) 医学進学課程総会(六月二日)
- (10) やよい会(女学校)総会(六月二十七日)
- (11) 工学部委員会(九月二十一日)
- (12) 法学部委員会(十月十八日)
- (13) 文学部委員会(十月二十日)
- (14) 経済学部委員会(十月二十二日)
- (1) (14)の議案は大学各学部同窓会懇親会開催の件
- [注]会議に付議されました議案はすべて可決承認されており、なお予算決算等につきましては昭和四十七年度事業報告書並びに昭和四十八年度事業計画書(正会員に配付済)をごらん願います。

二 人事

- 会長・副会長・常務理事(七月二十七日・理事会)
- 会長 河野義克 (旧高6)
- 副会長 後藤精一 (専門2)
- 〃 松本良祐 (旧高8)
- 〃 福井純一 (政経1)
- 常務理事 谷岡喜久蔵 (旧高11)
- (任期・昭和四十八年七月九日―五十年七月八日)
- 理事・監事(七月九日・評議員会)
- 評議員(六月十八日・会員総会)

- 印 理事・評議員(兼任) 二十九名
- △印 監事・評議員(兼任) 三名
- 無印 評議員 九十四名
- | | |
|-------------|-------------|
| 相川泰吉(中13) | 青葉翰於(実8) |
| 朝倉孝吉(旧高16) | 栗飯原景昭(旧高20) |
| 井口史郎(専2) | 伊本真子(女12) |
| 伊集院董(旧高12) | 池田孝夫(高10) |
| 碓本勘二(高8) | 石郷岡猛(工電1) |
| 池田保彦(旧高7) | 今村榮三郎(法1) |
| 石田恭一(政経9) | 岩崎寛弥(旧高23) |
| 今村知雄(旧高10) | 小倉暁(経1) |
| 蛭沢秀幸(工化1) | 緒方重雄(経1) |
| 小俣文宣(文2) | 岡田貞資(専4) |
| 太田浪三(小17) | 加藤英夫(中2) |
| 岡本昭一(工機3) | 金井省吾(政経5) |
| 堀谷玄(高4) | 木梨信彦(旧高2) |
| 神田嘉弘(医1) | 北畠裕子(女22) |
| 〇城戸毅(高5) | 久木留節雄(医1) |
| 久我太郎(旧高16) | 栗原美能留(中4) |
| 熊谷潤一(文3) | 児玉与史(文1) |
| 〇小布施志郎(小10) | 〇河野義克(旧高6) |
| 〇後藤精一(専2) | 佐藤貴(法1) |
| 近藤耕作(政経13) | |

齋藤修造(高9) 齋藤富彦(工経1)
竿代靖(実6) 酒井四平(政経2)
桜井晴彦(高6) 猿山昌平(実9)
島田喜久子(女17) 嶋田正哉(法1)
○柴山豊(医2) △生野専吉(旧高6)
菅原彦一(高7) 鈴木茂樹(文1)
○瀬木庸介(政経1) 田中栄一郎(旧高9)
高尾泰弘(中5) 高田亨(実11)
○高山英華(旧高4) 〇武部真佐子(女8)
立花昌雄(高6) 〇谷岡喜久蔵(旧高11)
丹治誠(高3) 〇月川新一(政経7)
戸谷洋一郎(工化2) 〇戸塚新(政経1)
中村光一(経1) 南部鎮雄(旧高1)
丹羽孝三(専3) 長谷川功(政経17)
畑田正樹(法1) 浜中昭(経1)
原田住江(小19) 樋口多嘉子(小14)
○平岡隆大(文1) 広瀬行夫(高2)
○福井純一(政経1) 〇松井靖夫(工機1)
松平直寿(旧高18) 〇松本良祐(旧高8)
三木喬(政経11) 〇宗像英二(旧高1)
○村上藤太(中5) 〇村上正夫(旧高1)
守屋美佐雄(政経15) △森新太郎(旧高1)
○安田敬一(政経2) 山内理(政経3)
山崎英也(旧高19) 山本龍二(医2)

○若林卓弥(実4) 若林正俊(高4)
渡辺一美(専5) 〇渡辺佳英(旧高8)
(理事・監事の任期昭和四十八年七月九日―五十年七月八日)
(評議員の任期昭和四十八年六月十八日―五十年六月十七日)
○特別委員会委員(七月二十七日・理事会) 〇印委員長
財務委員会
〇岡田貞資(専門4) 内藤薫(旧高12)
小林 繁(旧高16) 平塚保明(旧高1)
佐藤信一(政経2) 藤田譲次(中3)
生野専吉(旧高6) 村上正夫(旧高1)
田山正男(旧高1) 森本隆(旧高16)
成蹊クラブ委員会
荒木昌保(政経1) 渋谷栄一(旧高24)
伊東明(専門3) 清宮道信(旧高6)
菅野建雄(政経13) 園田信行(政経4)
斎藤敏夫(政経2) 三野明彦(旧高5)
酒井四平(政経2) 〇森新太郎(旧高1)
育英奨学委員会
栗飯原景昭(旧高20) 鹿毛達雄(高5)
○井本農一(旧高6) 兼子仁(高4)
伊集院 董(旧高12) 佐藤 敏雄(政経9)
岩崎英二郎(旧高15) 中川敏統(工機1)
小原正弘(旧高5) 三好道矢(旧高1)
(任期・昭和四十八年七月二十七日―五十年七月二十六日)

○特別会員(教職員) 五月十八日・理事会) 〇印卒業生

経済学部 篠原三代平(教授) 村松司叙(教授)
坂本行雄(教授) 後藤晃(講師)
工学部 西藤洋(講師)
志村利雄(教授) 越沢浩(教授)
〇鳳誠三郎(教授) 三輪誠(助教)
法学部 曾田厚(講師)
高等学校 〇平岡隆大(教諭) 山戸竹男(教諭)
中学校 〇坂東行和(教諭) 〇和泉秋二(教諭)
事務職員 今野良範(経済学部) 中川クニ(診療所)
大河内清(経理部) 中島喜一郎(中・高校)
上原義夫(小学校)

○同窓会会長・副会長・幹事

(1) 池袋同窓会(実務・中学・専門)

会長 後藤精一(専門2)
副会長 若林卓弥(実務4) 赤星平馬(中学8)
幹事 高田亨(実務11) 松田惇雄(中学8)
渡辺一美(専門5)
(2) やよい会(旧制女学校・女子学園)
会長 武部真佐子(8)
副会長 北畠裕子(22)
幹事 中西正子(3) 岸文子(6) 伊臣真子(12)
島田喜久子(17) 河野啓子(20) 北畠裕子(22)
夏目維久子(27) 戸田恭子(高1)

(3) 高等学校(旧制) 同窓会

会長 松本良祐(8理) 今村知雄(10文)
副会長 渡辺佳英(8文) 池田保彦(7文)
幹事 河野義克(6文) 田中栄一郎(9文)
伊集院 董(12文) 久我太郎(16文)
松平直寿(18文) 山崎英也(19理)
栗飯原景昭(20理)

(4) 政治経済学部同窓会

会長 福井純一(1) 安田敬一(2)
副会長 戸塚新(1) 安田敬一(2)
幹事長 酒井四平(2)
幹事 荒木昌保(1) 佐藤信一(2) 山内理(3)
小島明(4) 金井省吾(5) 西川泰(6)
月川一(7) 清水英紀(8) 堀圭吾(9)
碓本勘二(10) 三木喬(11) 三村洋介(12)
近藤耕作(13) 鳴尾克一(14) 関島常行(15)
布川尚道(16) 布施康善(17) 小方昭利(18)

(5) 医歯学進学課程同窓会

会長 柴山豊(2)
副会長 山木龍二(2)

(6) 小学校同窓会

会長 朝川澄夫(5) 太田浪三(17)
副会長 小布施志郎(10)

(7) 高等学校同窓会

会長 梶谷 玄(4)
副会長 丹治 誠(3) 城戸 毅(5) 桜井 晴彦(6)
幹事 広瀬 行夫(2) 若林 正俊(4) 立花 昌雄(6)
菅原 彦一(7) 碓本 勘二(8) 斎藤 修造(9)
池田 孝夫(10) 林 醇一郎(12) 石田 義雄(13)
佐藤浩之助(15) 山岡 均晴(19) 河北 博文(20)

(8) 工学部同窓会

会長 松井 靖夫(機1)
副会長 石郷岡 猛(電1) 蛭沢 秀幸(化1)

幹事長 戸谷洋一郎(化2)

幹事 中山 順一(化4) 江東 忠夫(経4)
米川 太郎(電5) 津端 哲(機7)

(9) 文学部同窓会

会長 平岡 隆大(英米1)

副会長 鈴木 茂樹(文化1) 小俣 文宣(日文2)
幹事 児玉 与史(日文1) 熊谷 潤一(英米3)

(10) 経済学部同窓会

会長 緒方 重雄(経1)

副会長 浜中 昭(経1) 小倉 暁(営1)
中村 光一(営1)

(11) 法学部同窓会

会長 嶋田 正哉(政1)

沖 久典(電気二年) 古賀 幸雄(機械三年)

大西利英子(化学四年)

文学部(九名)

馬越美枝子(英米二年) 長尾 洋介(英米二年)
堀田 芳江(英米二年) 松島 一美(英米二年)
荒木 礼子(日文二年) 大野 永治(文化二年)
浜 永一(文化二年) 青木 伸子(日文三年)
今井 慎二(文化三年)

法学部(八名)

岡村 晶(法律二年) 北野 清司(法律二年)
奥田 展生(法律二年) 久保 欣一(法律二年)
内田 雄二(法律三年) 高橋 真澄(法律三年)
奥住 春樹(政治三年) 高橋美知子(政治三年)
高等学校(二名)

土屋 夏彦(一年)

(2) 継続者(十七名)

大学院(二名)

山口 正克(経修二年) 辻田 節子(文修二年)

経済学部(四名)

萩原 裕(経営三年) 三富 洋(経営三年)
小山 真人(経済四年) 岡野 孝(経営四年)

工学部(五名)

春口 浩三(機械三年) 佐々木丈夫(化学四年)
杉野 幸子(化学四年) 河崎 雅治(経営四年)

副会長 浜中 泰男(政1) 佐藤 貴(法1)

畑田 正樹(法1)

(任期・昭和四十八年四月一日～五十年三月三十一日)

三事業

○後援金

(1) 成蹊大学内運動競技会(五月十六日)

金五〇、〇〇〇円

(2) 成蹊大学博覧祭(七月六日)

金一〇〇、〇〇〇円

(3) 成蹊大学第五回レガッタ(七月八日)

金五〇、〇〇〇円

○成蹊会誌第三十七号(六月二十日)

一三、〇〇〇部(四十九頁)

○成蹊会支部名簿(八月一日)

九州・北海道・千葉・東海の各支部名簿

○昭和四十八年度育英奨学生(七月五日・育英奨学委員会)

(1) 新規採用者(二十九名)

大学院(三名)

村上 彰(工修一年) 三島 由明(経修一年)

佐藤 正雄(営博一年)

経済学部(四名)

西岡 弘毅(経済二年) 浜地 敏彦(経済二年)

清水 栄一(経営二年) 根本 和史(経営二年)

工学部(三名)

木村 幸雄(経営四年)

文学部(五名)

白瀬 恭子(英米三年) 斎藤 弘子(文化四年)

白石千衣子(英米四年) 増田えり子(英米四年)

宮本 昭子(英米四年)

法学部(一名)

坂本 真(法律四年)

(3) 昭和四十八年度育英奨学金

新規採用者(二十九名) 二、一六〇、〇〇〇円

継続者(十七名) 一、二七二、〇〇〇円

合計(四十六名) 三、四三二、〇〇〇円

(4) 育英奨学金貸与額

高等学校生 月額 六、〇〇〇円

学部学生 〃 六、〇〇〇円

大学院学生 〃 八、〇〇〇円

(5) 貸与総額(昭和四十八年三月三十一日現在)

二、八一七、五〇〇円(うち返済金三、七二七、八五〇円)

四 寄付金

(1) 育英奨学基金

六、三三八、〇〇〇円(成蹊会誌第三十七号既報分)

一、九五七、〇〇〇円(新規・氏名は別記芳名録参照)

累計 八、二九五、〇〇〇円